

朝日 の *Asahi Welfare Letter* 社会福祉 だより

発行 朝日新聞厚生文化事業団 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-5540-7446 ホームページ <https://www.asahi-welfare.or.jp/>

Winter 2025

朝日新聞厚生文化事業団の
HPでもさまざまなお知らせ
を発信しております。アクセス
は右のQRコードからどうぞ



輪島漆器の復興へ 漆の絆を深める旅 輪島漆芸技術研修所 助成を生かし香川で研修

能登半島地震で被災した石川県立輪島漆芸技術研修所（輪島市）の研修生と教員らが10月、香川県で漆芸の後継者を育成する「香川県漆芸研究所」（高松市）を訪問しました。2025年1月に事業団が開催した「朝日チャリティー色紙展・輪島応援工芸展」の売り上げをもとにした助成金を活用した取り組みです。



制作した時の思いや表現の意図を説明する
山下義人さん（高松市美術館）

厳しい状況にもかかわらず輪島に残って学び続ける選択をした研修生た

ちを、しっかりと育て、誇れる伝統文化の輪島漆器、ひいては地域の復興を担う存在になってほしい。見聞や人脈を広げることが、これから糧になるよう。スタッフの愛情あふれる思いから実現した2泊3日の研修です。

研修生32人全員と教員ら計47人が参加。高松市美術館で開催中の人間国宝・山下義人さんの回顧展を、研究所の講師でもある山下さんの案内で鑑賞し、その後研究所を訪れ香川漆器独特の技法「蒟蒻」「存清」「彫漆」を、実際の作業を見ながら説明を受けました。さらに金刀比羅宮（琴平町）を参拝し、香川と輪島の職人が協力して復元した蒔絵の天井画を見学しました。

輪島・香川ともに文化庁の支援を受けて人間国宝を含む職人が次世代へ技術を伝えています。同様の公立施設は他にないものの、これまで双方が全面的に交流する機会はありませんでした。鮮やかな色彩や精緻な彫り、目的

は同じでも全く違う道具など輪島と違う表現と技術を目の当たりにした驚きや感動、同じ道を志す香川の学生や先生と出会い意欲を新たにした様子が、研修生たちの報告から伝わってきました。



香川漆器の技法の説明を受ける
(香川県漆芸研究所)



金刀比羅宮の天井を
飾る蒔絵

漆を勉強している同年代の方と交流ができる刺激を受けた。香川の学生の方々は公募展に出展しているらしく、私も後に続きたいと思った。

実際の文化財を通して、伝統技術の確かさと保存の大切さを改めて感じる機会になりました。

研修生の報告から

香川漆芸の核である三技法に圧倒されました。漆の奥深さと高度な技術を継承する意義を深く考える、感動的な見学でした。

インスタグラムでフォローしている数名の研究所の学生にお会いできました。

同じ漆芸でも輪島とは全く違うことにわくわくしました。

交流会の会場に日本の素晴らしい伝統の技術が一つに集まっていた喜びと、この狭い会場に収まってしまう小ささには考えさせられるものがありました。自分たち若い世代がどうこの伝統を先に伝えていけばよいか。

事業のご報告

発達障がいのある子どもの外出支援 (11月22日、石川県穴水町)

能登半島地震の影響で外出の機会が限られていた放課後等デイサービス(放デイ)の子ども2人と、高崎健康福祉大学の学生ボランティア5人が、県立森林公園で遠足を通じて交流しました。被災地の子どもに笑顔を届けると同時に、学生には福祉や被災地支援について実地で学び考える機会を提供する目的です。

大人が多いにもかかわらず動きの速い子どもたちを見失う場面もあり、学生たちもへとへとに。昼食をともにして、子ども達の帰宅後に放デイを見学させてもらうなど、発達障がいのある子どもの特性や施設への理解を深めました。



木製遊具で思い切り身体を動かした
(津幡町)

奨学金団体交流会 (11月30日、東京都中央区)

社会的養護の出身者を対象にした奨学金事業を行っている14団体から20人が参加。奨学生の選考について「将来性と必要性、どちらをとるのか」「いわゆる『優秀』な生徒に偏っているのでは」という悩みが出され、企画したびあ応援団*のメンバーからは、地域、施設、職員、里親の間でも進学に対する意識に大きな差があり、応募時の壁となっていることが語られました。他にも応募書類を整える大変さ、進学後に望むサポートなど、率直で具体的な意見交換ができた時間となりました。



イベントカレンダー

1月18日(日) 自殺予防公開講座 (福岡市・レソラホール)

2月3日(火) 朝日チャリティー色紙展 ~16日(月) (オンライン)



キャンパスライフ



4年制大学 政策学部 3年生

地域社会学のゼミにはいました。そこで、移住政策について詳しく学びたいと考えています。学ぶことってすごく楽しいなって日々感じています。私が大学で学べていることを当たり前だと思わずに感謝しながら過ごしていきたいと考えています。そして、将来たくさん的人に応援してもらった分、子供達に還元できるように働きたいです。

4年制大学 文学部 2年生

将来は、図書館で働きたいと考えています。できれば、都会ではなく地方の方で働きたいです。しかし、図書館司書の資格を取得したとしても、正規採用として募集している図書館は非常に少ないため、狭き門だと言われてきました。この道を諦めることはできませんが、現実を見ることも必要だと思うので他の道も考えてみた方がいいかなとずっと悩んでいます。

4年制大学 文学部 3年生

現在続けているアルバイトで、最近は自分の気持ちのコントロールを努力しています。私は細かいところが気になる性分らしく、お客様の片付かれていかれないカゴやカートを見つけると腹を立ててしまうのですが、それを戻し、売り場を清潔にするのも仕事なのだと考えるよう気持ちは向けるようにしています。より丁寧な接客に取り組めるように、大人らしくありたいと努力しています。

